

第4学年 国語科学習指導案

平成27年 6月24日(水)

授業者 泉頭 美紀

1 単元名 物語のあらすじをとらえよう

教材名 「ゆうすげ村の小さな旅館」

2 単元目標

○不思議な物語を読むことに興味を持ち、物語のしかけを探しながら読もうとしている。

【国語への関心・意欲・態度】

○時を表す言葉を手がかりに場面を分け、場面ごとに内容の大体を読み取り、叙述をもとにあらすじをまとめている。

【読む能力】

○文と文のつながりを考えながら、時をあらわすことばや指示語を使ってあらすじを書いている。

【言語についての知識・理解・技能】

3 学習の基盤

- 本単元は、国語科学習指導要領「C読むこと」(1)ウ「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。」およびエ「目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。」を重点指導項目としている。

教材文「ゆうすげ村の小さな旅館」は、ゆうすげ旅館で起こる不思議な出来事について書かれたお話である。

本教材では、場面の移り変わりや登場人物の人物像に着目して物語を読み、あらすじをまとめる活動を位置付けている。児童はこれまでに、場面の様子や登場人物の気持ちに気を付けて読むことを学習してきた。ここでは、場面と場面の変化や物語の全体像をつかむ力をつけることをねらいとしている。一部に挿入部分があるが、基本的には時間を追って話が展開していく構成で、時を表す言葉を手掛かりに場面分けをし、場面ごとの大事な出来事を読み取ることができる教材である。ファンタジーならではの「しかけ」に気付き、不思議な世界の物語のおもしろさを知り、書き手の工夫に気付いたり言葉を味わいながらじっくりと読んだりし、読書の幅を広げるきっかけにもしていきたい。

- 本単元を貫く言語活動として、「C読むこと」の言語活動例「エ 紹介したい本を取り上げ説明すること」を具体化し、物語のあらすじや「しかけ」につながる言葉の紹介などを「本の紹介新聞」に書いて3年生に紹介することを位置づけた。「本の紹介新聞」には、以下のコーナーを設ける。

①あらすじ

②登場人物の紹介

③「しかけ」につながる言葉(不思議だなと思うところ)

④感想

単元の導入として「ちょっと不思議な物語」をテーマにしたブックトークを行う。「ゆうすげ村

の小さな旅館」のゆうすげ旅館で起きたほかの不思議な出来事を書いた物語や、作者茂市久美子さんの「つるばら村シリーズ」、教科書に紹介されている本、その他学校司書おすすめの本などできるだけ多くの本を用意し、「ちょっと不思議な物語」に対する児童の興味を高めておく。児童には、この本の中から紹介新聞を作ることを知らせる。単元の学習と並行して不思議な物語の本を読み、その中から本を1冊選び、その本については何度も読み返し、紹介新聞が作れるようにしておく。

第2次では、二人の登場人物の人物像について読み深めていく。行動や会話から二人がどのような人物であるのかを図式化しながら視覚的にも分かりやすく板書していき、どの児童にも登場人物の人物像をとらえることができるようにしていく。また、ファンタジーならではの「しかけ」がどこにかくされているのかを読み取っていく活動は、自分の選んだ本を読み進めていく際に、より丁寧に読むことができると考えている。すべての本が、登場人物を最後まで伏せて話が進んでいるわけではないので、「しかけ」については、不思議だなと思う場面（物語をよりおもしろくしているところ）を見つけて書くことができればよいこととする。

第3・4次では、時を表す言葉を手がかりに場面分けをしてからあらすじにまとめていく。それぞれの場面での大事な出来事は何かを考えさせながら、場面ごとに出来事を短くまとめていく。あらすじを書く時には観点を示し、まとめていくようにする。

第5次で自分の紹介したい本で紹介新聞を書いていく。4次までに学習してきたことを掲示し、個別に学習が進めていけるような手立てとする。

本時では、児童が見通しをもって教材文を学習し、紹介新聞作りに意欲的に取り組めるよう、3年生へ本の紹介をしようと呼びかけ目的意識をもたせる。紹介新聞にどのようなことを書けばよいのかを児童に考えさせる。「あらすじ」「心に残った場面」「登場人物の紹介」など本の内容がある程度わかると読んでみようと思ってくれるのではないかと、ということ児童自身で見つけさせたい。その際に、あらすじについては教師の紹介新聞を例示し、どのように書いたらよいのかを見通しを持たせることができるようにする。場面ごとに大事な出来事をまとめたり、「しかけ」はどの部分なのかを考えながら読んだりしなければいけないことを児童が主体的に考え、見つけられるようにしていく。

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語に関する知識・理解・技能
不思議な物語を読むことに興味を持ち、物語のしかけを探しながら読もうとする。	時を表す言葉を手がかりに場面を分け、場面ごとに内容の大体を読み取り、あらすじをまとめている。	文と文のつながりを考えながら、時をあらわすことばや指示語を使ってあらすじを書いている。

5 単元の指導と評価の計画（全10時間）

次	時	目 標	主な学習活動	評 価			
				関	読	言	評価規準（評価方法）
1	1 本 時	学習の見通しをもつことができる。	①「ちょっと不思議な物語」のブックトークを行う。 ②「ちょっと不思議な物語」の本の紹介新聞を作り、3年生に紹介しよう」という学習のゴールを知る。 ③紹介新聞にどのようなことを入れていくとよいか話し合う。	○			不思議な物語を読むことに興味をもち、楽しんで取り組もうとしている。
2	2	人物像について考え、物語の「しかけ」を見つけることができる。	①つぼみさんと美月さんの行動や会話から二人の人物像をとらえる。 ②物語全体を見て、「しかけ」になっている部分について話し合う。		○		人物の行動や会話などの物語の叙述に着目し、人物の気持ちや人物像を読み取ったり「しかけ」に気づいたりしている。
3	3 4 5	時を表す言葉を手がかりに場面わけをし、場面ごとの出来事を短くまとめることができる。	①時を表す言葉を手がかりにして、場面を分ける。 ②それぞれの場面ごとに起きた出来事をまとめる。 ③物語全体を見通して、大事な出来事を確かめる。		○		時を表す言葉を手がかりに場面を分け、場面ごとの出来事を整理して内容の大体を読み取り、場面ごとに大事なことをおとさずにまとめることができている。
4	6	物語全体を通して大事なことを確かめて、あらすじを書くことができる。	①大事なところをおとさないようにあらすじをまとめる。 ②まとめたあらすじを見直す。		○		大事なところが伝わるようにあらすじを書いている。
5	7 8 9 10	自分の紹介したい本の紹介新聞を作ることができる。	①自分が選んだ本のあらすじをまとめる。 ②「しかけ」につながる言葉を見つける。 ③感想等を含めて新聞にまとめる。	○	○		学習したことを生かしてあらすじを書いたりしかけにつながる言葉を見つけたりして紹介新聞を書いている。

6 本時の学習

(1) ねらい 本の紹介新聞を作るために必要なことを考え、今後の学習の見通しを持つことができる。

(2) 本時の学習展開 (1 / 10)

時間	学習活動	教師の支援と評価
10	<p>1 「ちょっと不思議な物語」のブックトークをする。</p> <p>(1) ブックトーク後に、「天の川のたんざく」の読み聞かせをする。</p>	<p>・場面ごとに起きた出来事が分かりやすいように場面ごとの絵を掲示しながら読み進める。</p> <p>【関】不思議な物語を読むことに興味をもち、楽しんで聞こうとしている。</p> <p>(観察・発言)</p>
30	<p>2 単元全体の見通しをもち、本時のめあての確認をする。</p> <div data-bbox="264 837 1382 909" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「ちょっと不思議な物語」を読んで、本の紹介新聞を作り3年生に紹介しよう。</p> </div> <p>(1) どのようなことを紹介新聞に書けば、物語のおもしろさが伝わるのかをグループで話し合わせ、発表させる。</p> <div data-bbox="296 1088 999 1144" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>紹介新聞で伝えたいことを考えよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ あらすじを書くと読みたい気持ちになるかな。 ・ おすすめの場面を書いて紹介したいな。 ・ 感想を書いておもしろさを伝えたいな。 ・ 登場人物の紹介があると分かりやすいな。 <p>(2) これからの学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あらすじは分かりやすく書きたいな。 ・ 感想でおもしろさを伝えよう。 ・ 3年生が本を読んでくれるといいな。 	<p>・単元の見通しがもてるように単元全体のめあてを掲示する。</p> <p>・何を書いたらいいのか考えやすいように、紹介新聞の枠だけを用意する。</p> <p>・児童が主体的に取り組んでいけるよう、紹介新聞に書くことを児童自ら見つけさせる。</p> <p>・付箋に書かせることで、どのような学習をするとよいのかを視覚的にも分かるようにしておく。</p> <p>・紹介新聞に書くために必要なことを確認し、これからどのような学習していけばよいか見通しをもたせる。</p> <p>【関】物語を紹介するために必要なことを考えることができる。(付箋、発言)</p>
5	<p>3 本時の振り返りをする。</p>	<p>・次時の学習意欲につなげられるようワークシートで自己評価する。</p>

(3) 本時の評価

十分に満足できる	おおむね満足できる	支援を必要とする児童への手立て
紹介新聞を書くために必要なことが理由も入れて説明でき、あらすじを書くためにどのような学習をしていけばよいのかが分かる。	紹介新聞を書くために必要なことが分かり、担任の紹介新聞からあらすじのよさを付箋に書くことができる。	紹介新聞に書かれてあることを項目ごとに困んだものを示し、本の紹介をする時に大切なことを考えさせる。

(4) 研究の視点

本の紹介新聞の内容について児童に考えさせたことは、学習に見通しをもち児童主体で学習計画を立てることにつながったか。